



平成 21 年 10 月 20 日

各 位

会 社 名 株式会社 フ ジ ト ミ
代 表 者 名 代表取締役社長 細 金 英 光
(J A S D A Q ・ コード 8 7 4 0)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 新 堀 博
電 話 03-3209-5500

平成 22 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (連 結 ・ 個 別) 業 績 見 通 し に 関 す る お 知 ら せ

平成 22 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (連 結 ・ 個 別) 業 績 に つ き ま し て は、現 在 集 計 中 で あ り ま す が、現 在 ま で の 集 計 結 果 に 基 づ く 業 績 見 込 は 下 記 の と お り で あ り ま す。

な お、当 社 グ ル ー プ は、平 成 22 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 の 業 績 予 想 を 開 示 し て お り ま せ ん の で、比 較 は 前 年 同 期 と 行 っ て お り、前 年 同 期 実 績 と の 差 異 に つ き ま し て は、下 記 の と お り と な る 見 込 み で あ り ま す。

記

1. 平成 22 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (連 結 ・ 個 別) 業 績 見 込

(1) 第 2 四 半 期 累 計 期 間 連 結 業 績 見 込 (平 成 21 年 4 月 1 日 から 平 成 21 年 9 月 30 日) (単 位 : 百 万 円)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益
前期第 2 四半期累計期間実績 (A)	1,020	△196	△158	△231
当期第 2 四半期累計期間見込 (B)	697	△507	△476	△482
対前年同期増減額 (B - A)	△322	△311	△317	△251
対前年同期増減率	△31.6%	—	—	—

【ご参考】

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 21 年 3 月 期 通 期 実 績 (連 結)	2,018	△467	△392	△477

(2) 第 2 四 半 期 累 計 期 間 個 別 業 績 見 込 (平 成 21 年 4 月 1 日 から 平 成 21 年 9 月 30 日) (単 位 : 百 万 円)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益
前期第 2 四半期累計期間実績 (A)	603	△188	△145	△184
当期第 2 四半期累計期間見込 (B)	347	△318	12	12
対前年同期増減額 (B - A)	△256	△130	158	196
対前年同期増減率	△42.5%	—	—	—

【ご参考】

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 21 年 3 月 期 通 期 実 績 (個 別)	1,217	△351	△271	△296

2. 業績概要等

(連結)

わが国の商品先物取引市場は、平成 16 年の商品取引所法改正以降、商品取引員に対する勧誘規制の強化等に伴い、市場の規模縮小の流れが続いておりますが、当第 2 四半期連結累計期間においても全国商品取引所の出来高合計は 1,662 万枚（前年同期比 35.3%減）と、規模縮小が一層進む結果となりました。

この影響で、当第 2 四半期連結累計期間の投資関連サービス事業の業績は、商品先物取引受託業務の受取手数料が 424 百万円（前年同期比 31.6%減）、自己売買業務の売買益が 35 百万円（前年同期比 90.4%減）と大幅な減収となり、生損保の募集手数料 18 百万円（前年同期比 117.6%増）等と合わせた営業収益合計は 480 百万円（前年同期比 52.0%減）と低水準にとどまりました。一方、営業費用は 964 百万円（前期比 18.0%減）とほぼ予定水準まで削減したものの、営業収益の落ち込みが大きく、営業損失は 483 百万円（前年同期は 176 百万円）となる見込みであります。

なお、太陽光発電機・オール電化機器等の販売事業（子会社㈱エコ&エコで平成 20 年 7 月から営業開始）の当第 2 四半期連結累計期間の業績は、売上高 217 百万円、営業損失 26 百万円となる見込みであります。

これらの結果、当第 2 四半期連結累計期間の業績は、営業収益 697 百万円（前年同期比 31.6%減）、営業損失 507 百万円（前年同期は 196 百万円）、経常損失 476 百万円（前年同期は 158 百万円）、第 2 四半期純損失 482 百万円（前年同期は 231 百万円）となる見込みであります。

(個別)

当社（個別）につきましても、厳しい市場環境下、当第 2 四半期累計期間の商品先物取引受託業務の受取手数料が 227 百万円（前年同期比 25.0%減）、商品先物取引自己売買業務の売買益が 98 百万円（前年同期比 66.1%減）と低調な実績となる一方、人件費の抑制を中心に圧縮を進めた営業費用は 665 百万円（前年同期比 15.9%減）となりました。

なお、当第 2 四半期累計期間において、子会社丸梅㈱からの配当金 300 百万円を営業外収益として計上しております。

これらにより、当第 2 四半期累計期間の業績は、営業収益 347 百万円（前年同期比 42.5%減）、営業損失 318 百万円（前年同期は 188 百万円）、経常利益 12 百万円（前年同期は経常損失 145 百万円）、第 2 四半期純利益 12 百万円（前年同期は純損失 184 百万円）となる見込みであります。

(注) 上記に記載した数値は、現在までの集計結果に基づく速報値で、会計監査人による監査前であるため、後日開示する業績とは異なる場合があります。

以 上